

# Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)11月10日  
 会 長：泉 憲一  
 幹 事：亀井 直人  
 副幹事：山回 哲司  
 例 会：日 毎週木曜日PM12:30~  
 会 場：ビルト名古屋

事 務 局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号  
 T E L：052-211-3803  
 F A X：052-211-2623  
 M A I L：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1642回例会

～雑誌月間～

クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年4月3日(木) 曇 第38回

司 会：梅村昌孝会場委員長  
 齊 唱：「君が代」「奉仕の理想」  
 ゲ ス ト：熱田区長 宮木哲也さん  
 熱田区役所街づくり推進室 主査 西川修平さん  
 森 裕之さん

### 会長挨拶

泉憲一会長

みなさん、こんにちは。今日は軽減税率についてお話ししたいと思います。まだ日本では軽減税率は適用されていませんが、今月からの消費税増税に伴い、景気の先行きが心配される中で、来年度2015年10月にふたたび10%に引き上げられます。それに合わせ、食料品などの税率を低くする「軽減税率」について、今まさに議論が進められています。



思い起こせば日本で最初に消費税3%が導入されたのは、1989年(平成元年)のことでした。そして8年後の1997年に5%になり、17年を経た今、8%に引き上げられました。しかし、わずか一年半後の2015年10月に再び10%に引き上げられる予定となっています。5%からいきなり10%にすると国民に負担がかかるため、2段階に分けて上げるという政府の考えから、8%の消費税の期間はたった一年半の間ということになります。

この消費税率10%時に、食料品などの生活必需品の税率を低くする軽減税率を導入することが検討されています。海外ではすでに多くの国が軽減税率を採用しており、その効果は一長一短があるようです。いくつかの国での具体的な例をご紹介します、

●イギリスは、消費税率20%の国です。チョコレート、温かいまま持ち帰る食品に適用適用されます。軽減税率は0%のものはビスケット、冷たいまま持ち帰る食品、水道水、新聞、書籍、医薬品、居住用建物の建築などです。

●フランスは、消費税率19.6%の国です。キャビア、マーガリン、チョコレートに適用されます。軽減税率は5.5%で、トリュフ、フォアグラ、バター、ブラックチョコレート、書籍などです。

●ドイツは、消費税率19%の国です。生のトリュフ、店内飲食のハンバーガーです。軽減税率は7%で、酢漬けのトリュフ、持ち帰りのハンバーガー、犬用のクッキー、水道水、新聞、書籍、文化施設利用、宿泊施設利用など多くの軽減税率の適用をうけています。

●アメリカは、州レベルで売上税を採用しています。税率の統一はされていないのが実情で、無税の州もいくつかあります。

このようにいくつか外国の例がありますが、軽減税率の線引きが国によって違います。只言えることは、輸出品やぜいたく品と思われるモノには高い税率をかけ、国産品や生活に欠かせないものは軽減税率を採用しているということです。

『ドイツの軽減税率対象である「犬用のクッキー」は「動物の存在は人間の精神面の安定に欠かせない」という理由で、人間の子供向けのクッキーが認められなかったのに対し、見事に軽減税率を勝ち取ったそうです。ドイツでは軽減を受けられなかった企業が過去10年間で300件もの訴訟を起こしており、政府はより簡潔な制度の導入を促しているといえます。』

また、『イギリスの国民食のフィッシュ&チップスなど、温かいまま食べる物は20%の税率なのに対し、冷たいサンドイッチは0%でした。そ

こで政府は昨年、基準を「気温より温められたもの」と定めたため、店で温めて持ち帰るサンドイッチの場合は20%の税率になり、これはおかしいと訴訟が起きているそうです。』

どんな商品を軽減税率の対象にするのか難しいと思います。対象をめぐって、線引きが政治問題化する現象は多く見られています。

日本で予定されている10%増税の際に軽減税率が適用されるとなると、どうなるのでしょうか。我々庶民にとっては、とにかくシンプルでわかりやすいことが第一だと思います。

### 出席報告

渡辺喜代彦出席委員

会員63名 出席43名 (出席計算人数45名)

出席率 84.3%

3月27日は補填により 92.5%

### ニコボックス

渡辺喜代彦ニコボックス委員

・本日より入会させていただきます。よろしくお願いたします。

星野 一郎さん

・4月10日は結婚記念日です。半世紀以上経過しました。

森 恒夫さん

・4月1日は30回目の結婚記念日でした。真珠婚だそうです。頑張ってます。

亀井 直人さん

・3月25日は妻の誕生日でした。きれいな花をありがとうございました。

堀 慎治さん

・宮木区長、本日はお話しよろしくお願いします。

鈴木 淑久さん

・新入会員として星野さんをお迎えしました。皆様よろしくお願します。

本多 清治さん

・本日途中退席します。すみません。

佐治 寛行さん

・新年度となり、忙しいスケジュールです。

山本 英雄さん

・4月1日、新入社員4名を迎えました。

高木 元明さん

・桜がきれいでした。

内田 久利さん

・ロータリーバッジを忘れました。

野崎 洋二さん

### 幹事報告

亀井直人幹事

・本日13:40から9階「ことぶきの間」にて第10回理事会を行います。

・4月6日(木)春の家族会を行います。8:45に瑞穂運動場にお集まりください。

### 新入会員入会式

バッジ・ネームプレート授与：泉憲一会長

このバッジはロータリアンであるという誇りと、奉仕をさせて頂くという謙虚な心で着用することになっております。名札は会員、ビジター、ゲストにあなたの指名を覚えて頂くのに役立ちます。よろしくお願します。

星野一郎さん挨拶

本日よりこの会に入会させて頂くことになりました、星野一郎です。本多さんにご縁を頂き、この名古屋瑞穂RCに入会をさせて頂くことができましたことを大変嬉しく思っています。まだまだ若輩でございますが、皆様からのご指導を頂きながら一歩一歩成長して行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

大学と連携したまちづくり～地域の活性を活かして～

## 熱田区について

熱田区の人口・世帯数は、16区中最も少なくなっており、ここ30年ほど人口は横ばいになっています。面積は、東区に次いで2番目に小さく、高齢化率は、25.1%と全市で4番目に高い値になっています。区の特徴としては、熱田神宮を始め、断夫山古墳、白鳥古墳、宮の渡しなど歴史的文化遺産が重層的に存在し、その史跡の多さは、昔から熱田百ヶ寺とも呼ばれています。名古屋の母なる川、堀川も流れています。

熱田はその歴史性から門前町、宿場町、港町として発展・繁栄し、城下町より歴史が古いというプライドもあります。北部の金山周辺は、都心の繁華街、中央部に古い閑静な住宅街、東側に大規模な団地と事業所、南部西部は中小の工場と住宅が混在するエリアです。ほかにも、中央卸売市場の本場や名古屋国際会議場、白鳥庭園、そして今日のテーマにもある大学もあり、区全体として歴史文化、住まい、産業、水と緑など様々な要素が詰まったコンパクトな街であり交通利便性も高いまちです。

## 総合計画(基本計画)

これは名古屋市政全体の施策・事業に関する長期的な方針です。その上には昭和52年策定の基本構想があります。概ね10年程度の期間の計画を策定してきましたが、今回はリニア開業などをにらんで15年先を見据えつつ、5カ年の計画としています。

## 区政運営方針

毎年、区政の重要課題への取り組み方針を公表しています。これまでは単年度の計画でしたが、今回は、次期総合計画を踏まえて策定しました。今日のテーマの大学との連携は、3番目の項目に関わる項目が多い事項です。

## 名古屋は、意外と学生タウン

はじめに名古屋の大学の現状についてお話しすると大学・短大の数では、東京を除き政令市中3位です。学生数は、9万9千人と京都に次いで2位と多く、今年度は、北区に愛知学院大が開校したのでさらに2千人ほど増えています。かつて、工場等立地規制法により、大学が郊外に移転・流出しました。しかし、昨今では都心回帰の現象がみられます。今後さらに東区に名城大学が進出する予定で、地下鉄環状線沿線に大学が立地する傾向にあります。熱田区の名古屋学院大学は、平成19年に熱田区に移転してきました。日比野と白鳥の2キャンパスになります。

## NAGOYA学生キャンパス=通称「ナゴ校」

柔軟で発想力豊かな学生を「まちづくりのパートナー」と位置づけ、企業、地域、大学、行政と連携して事業をすすめます。学生をキーとした要望・提案を、事務局である市が収集するスキームとなっており、4つのチーム「イベント」「情報発信」「交流」「クリエイティブ」により実現します。2012年4月の開校当初、29名からスタートし、現在は550人以上が登録しています。現在40以上の企画・事業に取り組んでいます。

## ナゴ校の取り組み

学生EXPOは、久屋大通りを会場とする一大イベントで、1万人弱の人が集まります。学生が「ナゴ校」を通じて社会とつながること。様々な企画・事業に取り組むことにより、名古屋への誇りと愛着が持てるようになり、「名古屋ファン」になってくれることを企画しています。学生は宝です。将来にわたって、「名古屋に住み、働き続けたい」と思ってくれるか。これが大切です。そのためには、名古屋が若者にとってより魅力的で活力ある都市でなければならないと思います。

## 都市と大学、地域と大学について

かつて、大学の周辺には学生街がありました。昼も夜も若者がうろろして、なんとなく活気がありました。「学生街の喫茶店」という言葉も今は死語になりつつあります。これまでの大学本体は「象牙の塔」。一部の領域以外は、大学が直接地域社会と接することはありませんでしたが、近年は、積極的に地域連携、地域貢献を目指す大学が現れました。名古屋学院大学も早くからそれを意識して、学内に「地域連携センター」を立ち上げ名古屋へ移転後すぐに名古屋市と「連携協力に関する協定」を締結しました。熱田区をフィールドとして、これから紹介する様々な事業に取り組んでいます。

## 地(知)の拠点整備事業

文部科学省の補助事業です。昨年8月、大変な競争を勝ち抜いて採択されました。これまでの実績と、今後の連携事業、大学のカリキュラム、人材育成の考え方などが評価されたと考えています。

## 名古屋学院大学のCOC事業の3つの柱

歴史観光・減災福祉・地域商業。熱田区としても重要な課題ばかりが多くあります。

## キックオフフォーラム

1月11日に開催しました。COC事業への取り組み報告とテレビアナウンサーの高井一氏の講演「地域の宝をまちづくりに生かす～まちの現場を歩いて～」。パネルディスカッションが行われました。地元行政として副市長、地域として日比野・四間道、文部科学省、大学学長が出席しました。

## 推進組織

学長をトップとする、「COC推進会議」の下に、名古屋キャンパス委員会と瀬戸キャンパス委員会を設置しました。

## あったか!あつた魅力発見市

企画段階から大学も参画。多くの取り組みを行いセグウェイによる観光ツアーの試行も行いました。

## 商店街の活性化

「マイルポスト」は、瀬戸の銀座商店街でシャッター通りを蘇らせた実績があります。名古屋へ移転後すぐに、日比野学舎の1階にオープン。ここを拠点に、日比野商店街の活性化に取り組んでいます。イベント、商品開発、販売促進、まちづくりなどに教師、学生が参加しています。女性部会の「ひびの小町」には、女子学生も参加。活発な議論を繰り返しています。地産地消「みつばちプロジェクト」関連の商品開発も行っています。市内のほとんどの商店街が衰退するなか、日比野商店街は加盟店が増加。昨年12月、経済産業省の「がんばる商店街30」に選定されました。

## 避難訓練コンサート

3月10日に実施。消防音楽隊のコンサートの途中に地震が発生したとして避難訓練を行いました。また「減災まちづくりフォーラム」として、テーマ「男女平等の視点からみた防災」の座談会を大学と共同で実施しました。

## 公式ツイッター

昨年8月に開始。9月1日の防災訓練で活用しました。

## 防災訓練

津波避難訓練では、学生が各避難住民のグループに同行。区役所からの訓練・非難情報をスマホで受信して、その後の行動につなげました。その後の2回の集中豪雨で実際に運用を行いました。

## 瑞穂区の情報発信

情報発信の先進区としてSNSを活用した情報発信に取り組んでいます。

## 地域ブランドについて

区政運営方針で、今回新たに打ち出しました。名古屋市は日本経済を牽引しているという自負はありますが、都市としてのブランド力はどうかという疑問があります。戦国武将の宝庫である尾張。重層的な歴史・文化がある熱田。熱田をひとつの地域としてブランド化できないか。大学と共同で勉強会を開始しました。

## まとめ

都市の活性化という観点から、名古屋が魅力ある都市、活力ある都市であるためには、元気な若者が集まり活動することです。一方、若者が集まるためには、都市そのものが魅力的であることが大切です。名古屋市としては、市内に集まってくる学生を貴重な人的資源と捉え、彼らが自由に活動できるステージを準備することが求められています。地域には、防災、福祉、環境、まちづくりなど様々な課題が山積しています。それらを解決する際、「知」の宝庫である大学が、身近にあって協力していただける。これはありがたいことです。そもそも大学の使命は、教育と研究。その成果を実践を通じて地域で活かしていただくことも大切なことです。自治体としては、そのためのフィールドを提供し、地域、企業、大学を結びつけるコーディネーターの役割を果たしてまいりたいと考えています。

## 例会のご案内

- 今週の行事 4月6日(日) 春の家族会  
場 所：高山 料亭「洲さき」
- 4月10日(木) 振替により休業
- 次々週卓話 4月17日(木)  
卓話講師：九重味琳(株)品質部研究管理課課長  
川崎明子  
テ ー マ：三河みりんと歴史